

# 公益財団法人京都市森林文化協会

## 第1 法人の概要

### 1 代表者

理事長 中野三郎

### 2 所在地

京都市左京区花脊八桝町 250 番地

### 3 電話番号

075-746-0439

### 4 ホームページアドレス

<http://dobanzy.com>

### 5 設立年月日

平成4年11月4日

### 6 基本財産

50,000 千円（うち本市出えん額 50,000 千円，出えん率 100.0%）

### 7 事業目的

京都市の森林の持つ公益的機能を高度に発揮させるため，森林の保全及び整備を行うとともに，自然と調和した森林文化の継承及び発展を図り，農林業を生かした地域の振興に寄与すること。

### 8 業務内容

- (1) 地球温暖化防止や景観形成等，公益的機能の高度な発揮を目的とした森林の保全及び整備に関する事業
- (2) 森林文化の継承及び発展に関する事業
- (3) 農山村地域と都市住民との交流の促進に関する事業
- (4) 宿泊休養施設等の管理運営に関する事業
- (5) 地域産品の生産，流通，広報等地域の振興に関する事業
- (6) 「山村都市交流の森」等，京都市の施設の管理運営に関する事業
- (7) 森林の保全及び整備の担い手育成並びに指導・助言に関する事業
- (8) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

### 9 所管部局

産業観光局農林振興室林業振興課（TEL075-222-3346）

### 10 役員名等

#### (1) 理事長

中野三郎

#### (2) 副理事長

松谷茂

#### (3) 専務理事

下畑寛蔵

#### (4) 理事

駒池重尚，古原久弥，松田直子，篠部幸雄，米田正次，大岩俊弥，田中俊夫，長島啓子，藤井順一，納谷義和，川田唯男（産業観光局農林振興室森林資源・鳥獣対策担当部長）

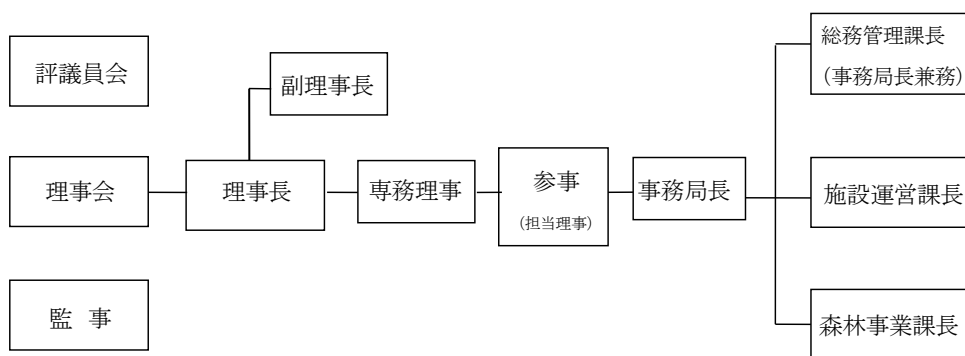
#### (5) 監事

中村政温，三井隆志（産業観光局農林振興室林業振興課 森林保全係長）

### 11 常勤職員数

8 人（うち本市派遣職員 0 人）

## 12 組織機構



## 第2 経営状況

### 1 平成30年度決算

#### (1) 事業報告

##### ア 公益事業

##### (ア) 森づくり事業

###### a 森林の保全・整備

地域性苗木等植栽 355 本

###### b 京都三山の景観保全・再生活動の推進

公開セミナー・シンポジウムの開催 4 回

###### c 「京の苗木」の育成・利用拡大

「京の苗木」の配布 1,837 本

###### d 森の工房「もくじゅ」の運営

(a) 木工の指導及び材料の提供, 木材に関する資料の展示

入場者数 1,739 人

(b) 木工教室の開催

開催数 11 回, 参加者数 489 人

###### e 木育活動

##### (イ) 交流の森等管理事業

###### a 「山村都市交流の森」の管理運営

入園者数 35,006 人

###### b 久多市有林の管理

###### c 京都市森林文化交流センター(森愛館)の管理運営(京都市指定管理者)

(a) ホール利用者 2,981 人

(b) 研修室利用者 433 人

###### d イベント事業

###### (a) 主催事業

開催数 45 回, 参加者数 1,510 人

###### (b) ふるさと森都市フェスティバル

開催数 8 回 参加者数 1,930 人

###### e チマキザサ再生事業

###### f 市民農園の運営

##### (ウ) 森林体験支援事業

保育園, 幼稚園及び小学校の団体への森林体験活動のサポート

イ 宿泊施設等運営事業（収益事業）

(ア) 宿泊休養施設「翠峰荘」の運営

a 季節に応じた宿泊プランや日帰りツアーの実施

(a) 宿泊者数 1,985 人

(b) 食堂利用者数 7,506 人

b 宿泊料金体系の見直し

c 旬の野菜を生かしたメニューの提供

(イ) 野外施設（屋外バーベキュー場）の運営

利用者数 4,677 人

(ウ) 誘客活動

各種ツアーやイベントのチラシを市内各所に配布するとともに、インターネット宿泊予約サイト「楽天」・「じゃらん」・「るるぶ」を活用し、誘客活動を実施

## (2) 財務諸表

貸借対照表  
平成31年3月31日現在

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	9,851	13,500	△3,649
売掛金	191	145	47
棚卸資産	547	421	126
貯蔵品	478	408	70
未収金	19,116	22,451	△3,335
前払費用	16	0	16
仮払金	415	400	15
流動資産合計	[30,613]	[37,324]	[△6,711]
2. 固定資産			
(基本財産)			
定期預金	50,000	50,000	0
基本財産合計	(50,000)	(50,000)	(0)
(特定資産)			
退職給付引当資産	11,293	10,872	421
特定資産合計	(11,293)	(10,872)	(421)
(その他固定資産)			
建物	3,386	3,386	0
建物付属設備	27,028	27,028	0
構築物	1,353	1,353	0
車両運搬具	0	0	0
什器備品	2,525	2,525	0
水道施設利用権	616	616	0
減価償却累計額	△13,440	△10,890	△2,550
電話加入権	349	349	0
その他固定資産合計	(21,817)	(24,367)	(△2,550)
固定資産合計	[83,110]	[85,239]	[△2,129]
資産合計	113,723	122,563	△8,840
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	15,712	15,751	△40
買掛金	286	133	153
預り金	856	482	375
仮受金	21	0	21
賞与引当金	1,120	880	240
未払法人税等	70	70	0
流動負債合計	[18,065]	[17,316]	[749]
2. 固定負債			
退職給与引当金	11,293	10,872	421
固定負債合計	[11,293]	[10,872]	[421]
負債合計	29,358	28,188	1,170
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
出捐金	50,000	50,000	0
国庫補助金	7,695	8,455	△760
地方公共団体補助金	9,958	10,926	△967
指定正味財産合計	[67,653]	[69,381]	[△1,727]
(うち基本財産への充当額)	(50,000)	(50,000)	(0)
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	[16,712]	[24,994]	[△8,282]
正味財産合計	84,366	94,375	△10,009
負債及び正味財産合計	113,723	122,563	△8,840

正味財産増減計算書

平成30年4月1日～平成31年3月31日

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	12	14	△2
事業収益	94,258	105,098	△10,840
受取補助金等	1,823	2,021	△198
雑収入	63	66	△3
経常収益計	96,157	107,199	△11,043
(2) 経常費用			
事業費	101,893	105,560	△3,666
管理費	2,475	2,626	△151
経常費用計	104,369	108,186	△3,817
当期経常増減額	△8,212	△986	△7,226
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
法人税等	70	70	0
当期一般正味財産増減額	△8,282	△1,056	△7,226
一般正味財産期首残高	24,994	26,051	△1,056
一般正味財産期末残高	16,712	24,994	△8,282
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	△1,727	△1,727	0
指定正味財産期首残高	69,381	71,108	△1,727
指定正味財産期末残高	67,653	69,381	△1,727
III. 正味財産期末残高	84,366	94,375	△10,009

2 令和元年度事業計画

(1) 事業計画の概要

ア 公益事業

(ア) 森づくり事業

- a 森林の保全・整備
- b 「京都伝統文化の森」事業の推進
- c 森の工房「もくじゅ」の運営

(イ) 交流の森等管理事業

- a 「山村都市交流の森」の管理運営
- b イベントの開催
- c 久多市有林の保全

- d 森林文化交流センター（森愛館）の運営
- e 体験農園の運営
- f チマキザサの再生
- (ウ) 森林体験支援事業
  - 保育園，幼稚園及び小学校の団体への森林体験活動のサポート
- イ 収益事業等
  - (ア) 宿泊休養施設「翠峰荘」運営の充実強化
    - a 宿泊利用者増加に向けた取組
    - b 日帰り利用者の利用拡大

(2) 予算

正味財産増減予算書  
平成31年4月1日～令和2年3月31日

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	30	30	0
事業収益	86,800	85,350	1,450
受取補助金等	1,650	1,650	0
雑収益	40	40	0
経常収益合計	88,520	87,070	1,450
(2) 経常費用			
事業費	86,270	84,870	1,400
管理費	2,050	2,050	0
経常費用計	88,320	86,920	1,400
当期経常増減額	200	150	50
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	200	150	50
一般正味財産期首残高	25,040	26,050	△1,010
一般正味財産期末残高	25,240	25,040	200
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	△1,720	△1,650	△70
指定正味財産期首残高	69,450	71,100	△1,650
指定正味財産期末残高	67,730	69,450	△1,720
III. 正味財産期末残高	92,970	94,490	△1,520

## (参考1) 財務状況の推移

(単位：千円)

		H28 (決算)	H29 (決算)	H30 (決算)	R1 (予算)
正味財産増減計算書	経常収益	114,005	107,199	96,157	88,520
	当期経常増減額	10,583	△986	△8,212	200
	当期正味財産増減額	8,785	△2,784	△10,009	△1,520
貸借対照表	総資産	123,054	122,563	113,723	
	総負債	25,895	28,188	29,358	
	正味財産	97,159	94,375	84,366	

## (参考2) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		H28 (決算)	H29 (決算)	H30 (決算)	R1 (予算)
委託料	森林文化交流センター 運営管理 (指定管理)	4,650	4,600	4,550	4,550
	交流の森センターエリア 維持管理	26,147	22,464	21,298	
	市有林保護巡視等業務	4,336	4,466	2,997	
	木材需要促進啓発イベント	390			
	四季の森施業等業務	17,348	13,264	7,970	
	四季の森倒木被害処理及び復 旧業務			2,997	
	京の森づくり技術者育成業務	1,976	1,291		
	ニホンジカ等捕獲・防除対策に 係る業務	14,235	7,959	5,165	
	森と木の恵みを育む実践活動 業務	497	494		
	チマキザサ再生事業		7,868	7,888	
	西京の森を歩く			736	
補助金	木材需要促進啓発イベント		294	96	

### 第3 経営評価結果

#### 1 所管局による経営状況の全般評価

財務面	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 昨年度まで流動負債の2倍以上に保たれていた流動資産が、1.7倍程度まで低下しており、財務の安定性が悪化している。</li><li>・ また、災害等の影響により、計画していた施設改修を見送ったため、経常費用は前年度と比べ減少した。</li></ul>
事業面	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 繁忙期である7月の豪雨災害や、9月の台風災害の影響により、事業収益が減少した。</li><li>・ また、京都市からの事業委託費の減少も、事業収益減少の一因となっている。</li><li>・ イベントの参加者数は、目標値(2,000人)の2倍を上回る4,400人以上となり、イベント事業を強化した成果が見られたが、入園者数及び宿泊施設利用者数の増加に結びつけることが出来なかった。</li></ul>

#### 2 外郭団体総合調整会議による評価コメント

財務面	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 委託料収入の減収や繁忙期に相次いだ災害の影響で収入が減少した結果、2期連続の当期正味財産増減額の赤字となった。</li><li>・ 自主事業の収益力強化等の経営改善に取り組み、早期の黒字回復を目指す必要がある。</li></ul>
事業面	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 積極的にイベントを開催し、多くの参加者を集めるなどの経営努力を行っている点は評価できる。</li><li>・ 今後はイベント参加者に宿泊施設での休憩・宿泊を促す工夫を行うなど、参加者の満足度向上とともに収益を確保していく仕組みを構築していくことが重要と考えられる。</li></ul>